

東京神学大学 事業報告書（2021年度）

I 法人の概要

1. 設置する大学と建学の精神

学校法人東京神学大学は、神学部神学科の学部、並びに組織神学専攻と聖書神学専攻を擁する大学院（博士課程前期、後期課程）を設置しています。これに併せて総合研究所（日本伝道研究所並びにアジア伝道研究所）を付設しています。2021年度の入学定員は学部5名、別途3年編入学定員20名で、学部総定員は64名、大学院博士課程前期課程入学定員は各専攻15名、博士課程後期課程入学定員は各専攻2名です。2021年度の学生数は学部38名、大学院35名、計73名（2021年5月1日現在）。

本学は、福音主義のキリスト教神学を研究し、福音の宣教に従事する教役者（牧師、キリスト教学校の聖書科教員などの伝道者）を養成すること、特に日本基督教団の教職者の養成と神学的指導の使命を担うことを「建学の精神」としています。これによって教育と事業を貫く「基本理念」を以下のように表明しています。「東京神学大学は日本基督教団の教職養成の責を担うものであるが、それとともに合同教会としての教団の世界教會的理想に従い、より広く日本の諸教会、アジアの諸教会の教職養成に貢献し、かくして日本の宣教と世界教會の宣教とに奉仕しようとするものである。」

2. 東京神学大学の沿革

東京神学大学は、日本基督教団の成立に併行して、福音主義キリスト教各派の神学機関を統合しながら成立し、この成立史とそこから生じる使命のゆえに「教団立神学校」として、今日に至っております。成立の経緯の概要は以下の通りです。

- 1859（安政06）年 プロテスタント諸教会の宣教師たちが日本で宣教を始める。
- 1872（明治05）年 横浜に最初の教会「日本基督公会」が設立される。
- 1873（明治06）年 宣教師のS・ブラウンが横浜に最初の神学塾「ブラウン塾」を開校。
- 1877（明治10）年 「東京一致神学校」（後の明治学院）開校。
- 1904（明治37）年 植村正久牧師により「東京神学社」設立。
- 1930（昭和05）年 本学の前身「日本神学校」が設立され、「明治学院神学部」が合流。
- 1941（昭和16）年 プロテスタント諸教派の合同教団として日本基督教団設立。
- 1943（昭和18）年 教派ごとに分かれていた15の神学校が「日本東部神学校」・「日本西部神学校」・「日本女子神学校」の3校に統合される。
- 1944（昭和19）年 「日本東部神学校」・「日本西部神学校」が、さらに「日本基督教神学専門学校」として合流。
- 1945（昭和20）年 「日本女子神学校」の後身「日本基督教女子神学専門学校」も「日本基督教神学専門学校」に合流。
- 1949（昭和24）年 新制度による大学として「東京神学大学」となる。
- 1951（昭和26）年 私立学校法の公布に伴い「学校法人東京神学大学」に組織変更。千代田区富士見町から三鷹市牟礼に移転。
- 1966（昭和41）年 三鷹市牟礼から現在地（三鷹市大沢）に移転。

- 1968 (昭和 43) 年 本館東部部分を増築。
 1986 (昭和 61) 年 本館から独立させて図書館棟を建設。
 2011 (平成 23) 年 韓国イエス教長老会神学大学校と相互協力協定を結ぶ。
 2020 (令和 2) 年 教員住宅を更新。
 2021 (令和 3) 年 学生寮を更新。

3. 役員・教職員の概要 (2022年3月31日現在)

(1) 理事 (18名)

理事長	近藤 勝彦	理事	小林 眞
学長理事	芳賀 力	〃	佐々木美知夫
財務理事	長山 信夫	〃	嶋田 順好
常務理事	藤掛 順一	〃	楠本 史郎
〃	棟居 洋	〃	D.リーディー
〃	黒沼 健	〃	東野 尚志
〃	湊 美都子	〃	松井 睦
〃	安藤 良一	〃	小山 美弥
理事	高橋 潤	〃	河田 直子

(2) 監事 (2名)

監事	小山田小八郎
〃	齋藤 孝

(3) 評議員 (37名)

評議員	岡村 恒	評議員	藤掛 順一
〃	山畑 謙	〃	山縣 史子
〃	服部 修	〃	黒沼 健
〃	武田 真治	〃	小泉 健
〃	小林 眞	〃	芳賀 力
〃	鈴木 はるこ	〃	神代 真砂実
〃	郷田 敬	〃	井ノ川 勝
〃	望月 修	〃	佐々木美知夫
〃	安藤 良一	〃	小堀 康彦
〃	湊 美都子	〃	古屋 治雄
〃	穴戸 基男	〃	黒米 理恵
〃	市川 一宏	〃	渡邊 義彦
〃	松井 睦	〃	小山 美弥
〃	A.キスト岡崎	〃	D.リーディー
〃	高橋 潤	〃	嶋田 順好
〃	東野 尚志	〃	棟居 洋
〃	河田 直子	〃	片桐 牧雄
〃	長山 信夫	〃	戸塚 智之
〃	楠本 史郎		

(4) 教育職員 (13名)

学 長	芳 賀 力	教 授	須 田 拓
教 授	神 代 真砂実	〃	長 山 道
〃	小 友 聡	常勤講師	田 中 光
〃	中 野 実	〃	本 城 仰 太
〃	W. ジャンセン	特任教授	棚 村 重 行
〃	焼 山 満里子	〃	朴 憲 郁
〃	小 泉 健		

(5) 事務職員 (14名)

事務長	片 桐 牧 雄		
総務課	戸 塚 智 之	今 中 匡 彦	山 田 雅 子
経理課	光 永 豊	今 中 匡 彦	
財務課	松 本 秀 則		
教務課・学生課	萩 原 なおみ	小 林 由 希 子	原 田 恵 美
	木 村 訓 子		
図書館	木 下 真由美	岸 本 苑 子	鮎 川 千 織
印刷室	保 坂 久 実		

II 事業の概要

2021年度は、2020年度に続き数回の緊急事態宣言の発令を受け、感染防止対策に追われ種々の活動が削がれ苦渋の運営が強いられた年度といえる。こうした中、本学の教育・事業の進捗状況や主たる改革努力について事業の概要を、ここで報告する。

1. 教育理念・目的および教育内容・方法・成果にかかわること

本学は、寄附行為前文、また学則に規定されているように、伝道献身者の養成を目的とし、そのための教育体制を整えている。しかし、2017年度より神学研修志望枠を設けて、信徒として教会やキリスト教学校、キリスト教施設等を支えようとする方々にも学部の学びを開放し、そのような広義の伝道者の養成も使命と捉えるようになった。2021年度には、この枠で2名が入学した。神学研修志望枠での入学者には、従来の伝道献身者枠への志望の変更が認められている。2021年度には、3名の志望変更志願者があった。

また、伝道献身者を育成するという一つの目的の下で、学部と大学院それぞれの教育の果たすべき役割を明確にすべく、既にそれぞれの学則に、学部と大学院それぞれの目的を記載しているが、それぞれのアドミッションポリシーについて、2021年度においても引き続き改善のための検討・改訂が行われた。さらに、新たにアセスメントポリシーを定めることができた。

博士課程後期課程については生産性の向上が課題であり、様々な改革を進めてきた。2020年度には1名について論文博士による学位の授与を決定できた。また、2021年度末にも1名について論文博士による学位の授与を決定できた（授与は2022年度となる）。2021年度の入学者は3名であった。引き続き、牧師として任地へ赴き牧会をしながら、あるいは他大学でキリスト教関係科目の教育を担当しながら、しかし十分な研究時間を確保して学び続けることができるよう、制度改革や支援の拡充に取り組んでいきたい。

2. 教育研究組織および教員・教育組織にかかわること

a. 授業担当者能力養成（FD）

本年度も、前期・後期にわたり科目を選択して交代させながら、学部と大学院双方で、授業効果調査アンケートを行い、それらの調査結果を授業担当者全員に開示した。

また、FD活動の一環として、また、大学基準協会の求めにも応じるかたちで、本学の研究倫理規程の内容を教授会メンバー全員で確認し、引き続き遵守することを申し合わせた。

b. 大学院博士課程後期課程研究発表会及び日本伝道研究所主催講演会

どちらも2020年度についてはコロナ禍により、実施できなかったが、2021年度には、どちらも実施できた。研究発表会（6月）では組織神学専攻の2名による発表がなされた。講演会は12月に行われた。

c. 2020年度から本城仰太常勤講師が任用された。これにより、教育職員の定数14名に対して13名を確保することとなったが、もう1名の補充が喫緊の課題となっている。2022年度から1名を任用することを目指し、交渉を進めているが、2020年度は、この交渉の状況を踏まえつつ、特任制度の拡充のための規則改正を行った。これにより、今後、教育職員任用の可能性が広がることが期待されている。

d. 2020年度には、コンプライアンス基本方針を定めることができた。これにより、特に教授会の意志決定が忠実に実行される体制が整備された。

e. 2021年度末に「東京神学大学教育職員の編制に関する基本方針」が制定された。

3. 学生の受け入れにかかわること

a. 新入学生の動向

2021年度には、神学部・神学科1年次に1名、同3年次に12名、学部としては合計13名の入学者を迎えた。なお、このうち2名は神学研修志望による入学である。2020年度の入学者は17名であり、全体としては献身者の数が大幅に不足している。大学としての定員充足の問題にまして、諸教会・学校に伝道者を送り出す使命を果たすために、献身者を呼び起こし、学生を受け入れる不断の努力が今後も必要である。12月に「危機的状況からのお願い」と題して本学を支えてくださっている諸教会、キリスト教学校に手紙をお送りした。

b. 高校生会、青年の集い、オープンキャンパス行事など

- ①高校生会には、毎年、首都圏の諸教会から高校生が集まるが、2021年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となった。
- ②本学と発起人教会によって行われている「日本伝道を担う青年の集い」は、毎年9月に本学で開催されるが、2021年度はコロナ禍のため動画配信で実施した。礼拝説教を本城仰太常勤講師に、献身の喜びを長尾ハンナ牧師（相愛教会）と藤井清邦牧師（聖ヶ丘教会）にお願いした。
- ③「オープンキャンパス」は、2021年12月4日に実施され、学外からは21名の参加があった（内オンライン7名）。そのうち受験相談には6名（内オンライン1名）が参加した。コロナ禍の中で限定されたプログラムではあったが、例年通り開催できたことは幸いであった。こうした地道な努力が中長期的に本学の志願者増大へと結びつくよう期待している。
- ④青年の集いやオープンキャンパスの終了後の受験相談は確実に受験に結びついている一方で、入学志願者への働きかけとしては時期が遅いとの指摘があったため、数年前から、より早い時期に「入試説明会」を行っている。2021年度は7月31日に開催された。遠隔参加2名も含めて、6名の参加者があった。全員2022年度入学者選抜の受験が見込まれた。
- ⑤学生受け入れの手段としてホームページの活用が有効となる。そこで、2021年度は本学の魅力を紹介するための動画を制作した。
- ⑥2022年3月19日、学生会主催の「ユースフォーラム」をはじめて開催した。45名の参加があった。青年は24名であった。

4. 学生支援にかかわること

a. 障がい者への配慮

2019年度には視覚障がいを持つ学生1名を受け入れた。この学生は日頃の授業等での配慮は必要としていないが、文献を読んだり文書を作成したりすることに時間を要するため、試験の時間を延長するなどの措置を講じている。2020年度に学部での学びを終え、2021年度から大学院博士課程前期課程に進学することとなった。

障害者差別解消法の施行により設置された自動ドア、エレベーターなどは、病気やけがを抱え、移動が困難な学生たちにとっても大きな助けとなっている。

b. 学内モラルの向上プログラム

2015年以来毎年4月に行っている神学校全学集会では、本学を構成するすべての者たちが召命共同体として自覚を持ち、使命感を明確にして共に学校生活を形作っていくための大切な機会となっている。また、伝道者養成のために学問としての神学を学ぶだけでなく、生活全体を献身者として整えていけるように「生活倫理講座」を行っている。

c. 夏期伝道実習および神学生出席教会の牧師との懇談会

2021年度の夏期伝道実習は、新型コロナウイルス感染対策のため万全な備えをしたうえ

で各地に実習生を派遣した。期間は、8月8日～9月5日の期間で行われた。実習参加者は、学部4年生15名、大学院修士課程1年生10名合計25名であった。秋には、実習先教会牧師の報告書と実習生の報告をもとにして、実習委員会の教員たちが参加学生と面談した。そこでさまざまな課題を共に話し合い、今後の大学と出席教会における学生の訓練の生活に役立てるように話し合いの時を持った。

神学生が出席している教会の牧師と教授会との懇談会を後期始業式の後に行ってきたが、2021年度は後期始業式・始業講演を学内者のみで行った。「神学生出席教会牧師と教授会との懇談会」は出欠のはがきを利用して近況報告を書いていた。

d. 留学生との懇談会

毎年、留学生全員と教授会メンバー全員とで懇談会を持っている。留学生の一人一人が学びや生活の状況を話し、またあまりかかわりのない教員とも交流を持つ機会となっている。2021年度はコロナ禍により自宅にとどまって遠隔授業を受けている学生もいることから、留学生懇談会もオンラインの会議システムを用いて10月19日に行った。今回に限り、教授会からは留学生委員会のジャンセン教授と焼山教授のみが参加した。留学生は2名が参加した。

e. 卒業予定者の就職状況

2021年度は、大学院修士課程前期2年生の修了者は12名、学部からの卒業者は3名、計15名が巣立っていった。大学院で学んだ12名のうち、1名は他教派からお預かりした人であった。残りの10名は日本基督教団の教会に、1名はキリスト教学校に教務教師として遣わされて行った。

5. 社会連帯・社会貢献にかかわること

a. 韓国のイエス教長老会神学大学校との交換教授プログラム

2021年度はコロナ禍のため交流を中止した。

b. 学校伝道協議会

2021年5月15日に第22回キリスト教学校伝道協議会をオンラインで開催した。主題は「キリスト教学校の礼拝」、77名の事前申し込みがあった。

c. 日本伝道フォーラムおよび東京神学大学後援会公開講演会活動

① 2021年6月7日に第3回日本伝道フォーラム（主題「福音の再発見：今、危機の時代にあって」）をオンラインで開催した。154名の事前申し込みがあった。

② 2021年度は、コロナ禍のもと大半の地区が公開講演会を中止したが、10月24日山梨地区公開講演会が山梨教会で行われ、須田教授が講演された。1月23日には東京東地区後援会が公開講演会として中野教授の講演を動画配信した。また、東神大から7月3日には須田教授が10月9日には中野教授が講演を担い動画配信した。

d. 教職セミナー

教職セミナーは毎年1月に開催され、学内外100名以上の参加者を与えられている。2021年度も、2022年1月11～13日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催する予定であった。しかし、コロナ禍のもと、計画を大幅に変更せざるをえなくなり、結果的には2022年1月11日（火）にオンライン（Webex）を介しての「教職者のためのオンライン・シンポジウム」として開催することになった。主題は「摂理の信仰」で、旧約、新約、組織、実践の神学各分野から六つの発題がなされた。120名近い参加者があった。

e. 東京神学大学公開夜間神学講座

本講座は、毎週二回（月・金曜日：午後6:00～8:00）、銀座教会の福音会センターで開催されてきた。敗戦後まもなくに創設された長い伝統をもつ、信徒のためのユニーク

な神学講座である。各年度は3学期に分かれ、神学入門、旧約聖書、新約聖書、組織神学、教会史、世界宗教史、キリスト教美術、キリスト教音楽、実践神学などの諸学を講師から学ぶことができる。2年間で全科目を終える正規生に加え、科目受講生、聴講生の制度もある。

2021年度には、75期生を迎え、会場を銀座教会の5階の広さと換気が出来る部屋に移した。対面での講座を開始したが、緊急事態宣言発出に伴い、講座日程の調整と変更及びやむを得ず閉講せざるを得ない講座もあった。解除後は対面とオンラインによるハイブリッドにて対応した。2021年度の修了者は正規生5名、科目受講生1名であった。

6. 内部質保証（自己点検評価）にかかわること

a. 東京神学大学「内部質保証向上委員会」の機能の実質化

2013年7月に本学の「内部質保証向上委員会」が設置され、本学における内部質保証体制に責任を持つことになった。2018年度にその規程等が整備され、2019年度からは、内部質保証向上委員会を中心とした内部質保証体制を実質化させることとなっている。2021年度は、内部質保証改善委員会から10項目の提言を受け、この内の「教育課程・学習成果」に関して、共通評価指標を意識した成績評価に努める等教務課から利用の徹底を図ること、また、学内でのWi-Fiの整備を進めることとし、礼拝堂、本館教室、学生寮等に実施した。更に、これらの指摘事項や、理事会・評議員会の懇談会における提言、中期計画の進捗状況等を踏まえて、まず内部質保証向上委員会が改善すべき課題を把握し、特別教授会に報告されて、検討されている。

7. 施設や設備に関する主たる事業について

a. 新型コロナウイルス感染防止対策

2020年度新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、本館・図書館・学生寮の出口にアルコール消毒液とマスクを設置した。また、各教室出入口にもアルコール消毒液を設置し、併せて各教室に「3つの密を避ける」ポスターを掲出した。2021年度は更に、各教室の机に「着席不可」のラベルを貼付し密を避けるようにし、また、授業終了後に各教室の消毒を行った。

図書館では、2020年度より引き続き2021年度も利用者間に感染拡大が発生しないように各種の対策を講じた。対策は本学が制定する「新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動制限指針」に則り、各図書館協会のガイドラインを参考にした。まず、学外利用者の受付を停止し、学内利用者には入館時のマスク着用と手指の消毒を義務づけ、距離を取っての利用を促した。さらに、入館人数と閲覧席数も制限した。午前と午後図書館施設のみならず図書館棟全体の消毒を行い、カウンターも利用者との間を難燃性のビニルカーテンで仕切った。また、従来はアルバイト学生のシフト人数を同時に複数としていたが1人に限定した。

b. 新型コロナウイルス感染拡大状況下での授業等実施について

2020年度に続く新型コロナウイルス感染症の拡大状況下にあつて、学生および教職員の安全確保と教育研究活動の維持を両立するべく、授業をはじめとする教育活動に於いて対面と遠隔形式の併用を継続した。特に授業については、対面を原則としつつ、状況に応じてWebexによる遠隔実施・対面参加を許容し、授業の実施そのものが滞ることがないように留意した。同時に、学修に係る諸連絡に於いては、従来の学内掲示・配付物による方法に加え、大学ホームページの在学生ページへの掲載およびメールによる個別連絡を併用し、受講生と教職員の間的情報伝達が迅速かつ確実に行われるよう努めた。

c. オンライン環境の活用

昨年度に引き続き、2021年度も新型コロナウイルス感染防止のため緊急事態宣言中はCisco Webexを利用してオンライン授業を実施した。また学内での集会においても、密を避けるため会場を分散してWebexによるサテライト会場（集会室と大教室など）を設け、オンライン参加も可能とした。

図書館資料に関しては、教員のリクエストに応じて電子書籍「RGG4+」を導入した。これは「Religion in Geschichte und Gegenwart（ドイツ語版）第4版」およびその英訳「Religion Past and Present Online」のオンライン版セットである。「RGG」は総合的宗教事典ともいえる本学における各研究分野に必須の文献であり、冊子体は既に所蔵しているが今回のオンライン版の導入に活用の一層の広がりが見込まれる。

d. 新学生寮および礼拝堂 Wi-Fi 環境の整備

2021年4月竣工の新学生寮にWi-Fi環境を整えた。当初インターネット回線が1回線のみだったため、6月にプロバイダの許容通信量（1回線当たり1TB）を大幅に超え、7月以降通信帯域制限がかかる事態となった。オンライン授業や日曜日の教会との通信等必要な通信が多い中、学生寮の利用者数（入寮可能数）に対して当初考えられていた通信量が不足していたため3回線を増設し、9月より通信量超過を解消した。

また、学生寮内のWi-Fi電波干渉によってインターネットに接続しづらい場所があるため調査を行っている（継続調査中）。

C教室のスイッチ機器が古くなったため7月にリプレースを行った。

礼拝堂については、説教演習の授業やオンラインイベント等で利用するため、12月に礼拝堂内にLAN回線を延伸し、Wi-Fiアクセスポイント2台と有線LAN回線を1か所増設した。

e. 公開夜間神学講座のオンライン実施を試行

新型コロナウイルス感染防止のため、夜間講座もオンラインで受講できるようにするためノート型PCを購入し、9月より会場の銀座教会とWebexのハイブリッドで実施した。今後更なる展開が課題となっている。

f. 本館の空調機の更新

2021年度は研究室（1室）の更新を行った。

g. 主な修繕工事

- ① 蛍光灯の生産が中止され入手が困難になる前に、照明のLED化を進めている。2021年度は、大教室、集会室、C教室、D教室および歴史神学研究室をLED化した。
- ② 学生会室が学生寮内に移ったため、旧学生会室を歴史神学研究室に改修した。併せて、旧歴史神学研究室を非常勤講師控室に、旧非常勤講師控室を学生相談室にそれぞれ改修した。
- ③ 旧学生寮解体に伴い、不要となった電源トランスを撤去した。専門の処理会社に依頼して適切に処分した。

h. キャンパス整備事業

2019年度に教員住宅が、2021年度に学生寮が完成し、供用を開始した。学生寮の建設完了時に資金不足が予測されたが、第3号基本金を事業資金(第1号基本金)へ移行する多くの同意を得られ、借入れを行うことなく建築が進められた。残すは研修センターの建設のみであるが、学生数減少に伴う減収を危惧し、資金計画に目途がつくまで一旦中止とした。各事業の進捗は以下の通りである。

① 教員住宅

2020年3月に完成・引き渡しを受け、供用を開始した。2021年3月に竣工後1年

検査を行い、ドアや階段周りの修正を行った。2021年度に、201号室・202号室へ向かう階段上の接合部分の目隠し工事を追加で行うこととした。

② 学生寮

2021年5月に完成・引き渡しを受け、供用を開始した。12月に防虫網追加工事、1月に防火扉の補修工事を行った。2022年5月に1年検査を予定している。旧学生寮は2021年7月から10月にかけて解体工事を行った。予期せぬ地中埋設物が出てきたが、解体業者を変更したことによって費用を抑えることができた。

③ 研修センター

基本計画の策定途中であったが、資金計画に目途がつくまで一旦中止とした。

④ その他

旧学生寮の解体に伴い、旧学生寮の敷地にあった給水設備を解体し、新たに本館給水設備を駐輪場前に設置した。従来は貯水槽から高架水槽へポンプで揚水していたが、今後は水道管より直接ポンプで揚水する。

8. 主たる行事

- (1) 4月1日 入学式（前期始業式はコロナ禍により中止）
式辞：芳賀 力学長
- (2) 4月2日～3日、6日 オリエンテーション
- (3) 4月5日 公開夜間神学講座開講式 銀座教会
- (4) 4月9日 前期授業開始
- (5) 4月9日 公開夜間神学講座 1学期開始 銀座教会
- (6) 4月20日 神学校全学集会
- (7) 4月23日 クラス別懇談会
- (8) 5月15日 キリスト教学校伝道協議会（オンライン開催）
主題：「キリスト教学校の礼拝」
教員免許状更新講習
- (9) 5月18日 全学懇談会
- (10) 5月25日 前期学生総会
- (11) 5月28日 運動会
- (12) 5月28日 公開夜間神学講座 クラス会 ⇒ 講義に振り替え
- (13) 5月31日 教員住宅・学生寮 竣工式
- (14) 6月7日 日本伝道フォーラム（オンライン開催）
主題：「福音の再発見 ～今、危機の時代にあって～」
同窓会報告会
- (15) 6月15日 全学祈祷会
- (16) 6月22日 博士課程後期課程研究発表会
- (17) 6月29日 学位授与式（長谷川忠幸氏）
- (18) 7月13日 夏期伝道実習オリエンテーション
- (19) 7月20日 夏期伝道実習壮行祈祷会
説教：日本基督教団代田教会 平野克己 牧師
- (20) 8月4日 前期授業最終日
- (21) 8月7日 夏期休業開始
- (22) 8月8日～9月5日 夏期伝道実習期間
- (23) 8月23日～24日 公開夜間神学講座 夏期研修会 ⇒ コロナ禍により中止
- (24) 9月3日 公開夜間神学講座 2学期開始（オンラインにて）
- (25) 9月14日 大学院修士論文提出締切
- (26) 9月22日 後期始業式
始業講演：使徒信条は使徒的なのか？－「信仰の基準」による使徒性の保証 本城仰太常勤講師
午後「神学生出席教会牧師と教授会との懇談会」
- (27) 9月23日 後期授業開始
- (28) 9月25日 日本伝道を担う青年の集い（動画配信）
- (29) 10月5日 夏期伝道実習報告会
- (30) 10月12日～20日 11月入試願書受付期間
- (31) 10月26日 全学修養会 基調講演1 「礼拝賛美の意義」渡辺善忠牧師（巣鴨教会）
- (32) 11月2日 全学修養会 基調講演2 パネルディスカッション
- (33) 11月9日～10日 全学修養会 講演：飯 靖子先生
- (34) 11月23日 11月入試実施日
- (35) 11月25日 11月入試合格発表

- (36) 12月4日 オープンキャンパス
- (37) 12月7日 日本伝道研究所主催講演会（オンライン配信）
「日本伝道の壁の突破を願って」
ー日本伝道ミーティング高知の取り組みを通して」
講演：黒田若雄牧師（高知教会）
- (38) 12月15日 修士論文合格発表
- (39) 12月17日 クリスマス礼拝 説教：佐々木 潤牧師（武蔵野教会）
- (40) 12月18日 冬期休業開始
- (41) 1月7日～18日 2月入試願書受付期間
- (42) 1月11日～13日 教職セミナー ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止
- (43) 1月11日 教職者のためのオンライン・シンポジウム
主題「摂理の信仰：コロナ禍をどう生きるか」
- (44) 1月14日 後期授業再開
- (45) 1月18日 第2回全学祈祷会
- (46) 1月25日 後期学生総会 ⇒ オンライン開催
- (47) 2月10日 後期授業最終日
- (48) 2月11日～12日 2月入学者選抜実施日
- (49) 2月16日 2月入学者選抜合格者発表
- (50) 3月4日 2021年度大学院前期課程修了者、学部卒業者発表
- (51) 3月8日 3月入学者選抜実施日
- (52) 3月10日 3月入学者選抜合格発表
- (53) 3月10日 卒業礼拝 説教者 岸 俊彦（経堂北教会牧師）
- (54) 3月11日 卒業・修了式
告 辞：芳賀 力学長
励ましの辞：石橋秀雄（教団総会議長）、福島純雄（筑波学園教会牧師）
- (55) 3月15日 3月追加入学者選抜実施日
- (56) 3月16日 3月追加入学者選抜合格発表
- (57) 3月19日 ユースフォーラム（学生会主催）